

未来への取り組み ~23区の未来図~

第17回 杉並区

杉並区立荻外荘公園と荻外荘展示棟

てきがいうそう

昨年12月、杉並区荻窪に荻外荘公園が開園しました。「荻外荘」は内閣総理大臣を3度務めた政治家近衛文麿の旧宅で、国の史跡です。杉並区は、この場所を残してほしいという地域からの要望を受け、約10年にわたる復原整備に取り組みました。今年7月には展示室、カフェ、ショップを備えた展示棟もオープンし、荻窪の歴史や文化を知り、憩える場所として賑わいを見せています。

政治の転換点となる重要な会談が数多く行われた「荻外荘」の歴史

医学者入澤達吉の別邸として
昭和2（1927）年に創建

政治家近衛文麿に譲渡され
日本の歴史の舞台となる

杉並区は昨年12月、荻窪駅南側の閑静な住宅街に荻外荘公園を開園しました。敷地の高台に歴史的建築物が建ち、その南側には明るい芝生広場が広がり、周辺にはケヤキやマツ、クスノキなどの大木も見られます。現在「荻外荘」と呼ばれているこの建物は、昭和2（1927）年、大正天皇の侍医頭を務めていた入澤達吉の別邸として建てられました。設計者は、築地本願寺などを手掛けた日本を代表する建築家の伊東忠太です。庭に入澤が愛したというカエデの木があったことから、入澤はここを「楓荻荘」と呼んでいました。

その後、内閣総理大臣となった近衛文麿が、この別邸と周囲の環境を気に入り、健康の相談相手であった入澤から譲り受け、昭和12（1937）年から住み始めました。「荻外荘」という呼び名は、近衛の後見人・西園寺公望が荻窪に移った近衛の体調良好に祝意を込めて命名したといわれています。近衛は心身の休養のためにここで暮らすことを決めたのですが、次第に国家の重要な会談の場として使用するようになります。近衛は、昭和15（1940）年には日独伊三国同盟締結へとつながる「荻窪会談」を、昭和



荻外荘外観 提供：株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン



荻外荘外観芝生より 提供：荻窪三庭園

和16（1941）年には日米開戦回避のための「荻外荘会談」を行いました。終戦後の昭和20（1945）年、A級戦犯の容疑をかけられた近衛は、荻外荘の書斎で自決しました。その後、昭和22（1947）年、戦後5度にわたり内閣を組織した吉田茂が移り住みます。翌年には第二次吉田内閣組閣の人事構想の場となりますが、同年に吉田はここを去ります。昭和35（1960）年に建物の東側半分にあたる玄関棟と客間棟が豊島区内へ移築され、昭和37（1962）年には敷地南側の池が埋められました。

地元町会の要望を受けてスタートした「荻外荘」の保存と復原整備

地元10町会が杉並区に要望書を提出

平成24（2012）年、荻外荘に住まわれていた近衛文麿の次男・通隆氏が亡くなります。これを機に、失われる可能性もあつた荻外荘を残してほしいという声があがり、杉並区は、地元10町会長連名による要望書を受け取りました。

これを受け、杉並区は平成26（2014）年に荻外荘の土地と建物を取得。翌年には今後の荻外荘のあり方に関する基本的な方針のほか、庭園及び建物の整備・利活用や管理運営についての考えを明らかにした「（仮称）荻外荘公園基本構想」を策定しました。

保存活用計画、基本計画を経て、復原整備工事へ

荻外荘は、平成28（2016）年、昭和前期の政治の転換点となる重要な会議が数多く行われた場所として、国の史跡に指定されました。区は平成29（2017）年、基本構想に基づく

「荻外荘保存活用計画」を策定し、荻外荘の史跡としての価値と構成要素を適切に保存・活用して確実に次世代に引き継ぐための方針、方法等を定め

ました。続く令和元（2019）年には、荻外荘を公園として公開・活用するために必要となる手続き、整備手法、運営手法などを提案し具体化することを目的とした「（仮称）荻外荘公園整備基本計画」を策定し、令和4（2022）年に復原整備工事に着手しました。

復原整備工事を担当したのは、株式会社竹中工務店です。なお、もともと入澤達吉の別邸として建てられた当時の施工者は「合同会社竹中工務店」を設立した第14代竹中藤右衛門でした。

荻外荘公園開園式と

荻外荘完成記念イベント

復原整備工事では、荻外荘を近衛文麿が住んでいた当時の姿に復原するため、建物を一度解体し、取り外した部材を組み直しています。地域の声をきっかけに始まった復原整備の取り組みは、約10年の時を経て、令和6

（2024）年12月、荻外荘公園開園という形で実現しました。

杉並区は、12月8日に荻外荘公園南側芝生広場で開園式を、12月15日には杉並公会堂大ホールで完成記念イベントを開催しました。完成記念イベントでは、荻外荘の復原に関してご指導いただいた工学院大学の後藤治氏と荻外荘展示棟（5ページ参照）の設計を担当された建築家の隈研吾氏による有識者対談、活動弁士坂本頼光氏による無声映画の上映を行いました。また、会場となった杉並公会堂としても、冠イベントとして「荻外荘完成記念六代

目神田伯山独演会」を実施してください、いづれも多くの方々にご参加いただきました。



荻外荘食堂 提供：株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン



荻外荘開園式 提供：杉並区



荻外荘客間 提供：株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン

荻外荘公園の近隣に位置する大田黒公園と角川庭園

音楽評論家大田黒元雄の 屋敷跡「大田黒公園」



大田黒公園 提供：杉並区

杉並区では、荻窪駅南側エリアにある荻外荘公園、大田黒公園、そして角川庭園を合わせて「荻窪三庭園」と称しています。大田黒公園は、音楽評論家・大田黒元雄の屋敷跡を杉並区が回遊式日本庭園として整備し、昭和56（1981）年に開園しました。樹齢百年を超えるイチヨウ並木やもみじなどの紅葉の名所として知られ、敷地内にある記念館は、国の登録有形文化財に登録されており、館内には、大田黒が愛用していたスタインウェイ社の1900年製造のピアノなどを展示しています。

角川書店創業者角川源義の 旧邸宅「角川庭園」



角川庭園 提供：荻窪三庭園

角川書店の創業者で俳人だった角川源義の邸宅を寄贈された杉並区が平成21（2009）年より一般公開している庭園で、俳句をよむための草花を四季折々に楽しめます。また、詩歌室や茶室の貸し出しも行っています。敷地内にある「幻戯山房（旧角川家住宅主屋）」は、俳句仲間でもあった建築家・加倉井昭夫が設計し、昭和30（1955）年に建てられた近代数寄屋建築で、国の登録有形文化財に登録されています。

荻外荘公園、大田黒公園、
角川庭園を
「荻窪三庭園」
と呼んでいます。

荻外荘公園

住所：東京都杉並区荻窪 2-43-36
電話：03-6383-5711
開園時間：9:00～17:00（最終入園 16:30）
休園日：水曜日、年末年始（12/29～1/1）
（芝生広場は年末年始のみ休園）
入館料：一般 300 円、小・中学生 150 円
（就学前の子どもは無料）
<https://ogikubo3gardens.jp/tekigaiso/>



大田黒公園

住所：東京都杉並区荻窪 3-33-12
電話：03-3398-5814
開園時間：9:00～17:00（最終入園 16:30）
休園日：水曜日、年末年始（12/29～1/1）
入園料：無料
<https://ogikubo3gardens.jp/ootaguro/>



角川庭園

住所：東京都杉並区荻窪 3-14-22
電話：03-6795-6855
開園時間：9:00～17:00（最終入園 16:30）
休園日：水曜日、年末年始（12/29～1/1）
入園料：無料
<https://ogikubo3gardens.jp/kadokawa/>



荻窪三庭園 map

「荻窪三庭園」巡りの拠点として気軽に立ち寄れる荻外荘展示棟

住宅街に溶け込む展示棟で 荻窪の歴史や文化を知る

荻外荘公園開園から7カ月後の7月16日、荻外荘公園の東側向かいに「荻外荘展示棟」がオープンしました。荻窪三庭園を巡る際の休憩場所として整備した誰でも気軽に立ち寄れる公共スペースで、荻窪の歴史や文化を紹介しています。

建物の設計は、新国立競技場などを手がけた隈研吾建築都市設計事務所が担当しました。坂の途中にやわらかく浮かぶ多角形の屋根が特徴で、住宅街に溶け込むあたためかみのある低層階の建物です。1階は大きなガラス窓から庭の木々や荻外荘を眺められるカフェと



提供：荻窪三庭園

荻外荘展示棟

住所：東京都杉並区荻窪2-42-12

営業時間：1階ショップ9:00～17:00

1階カフェ10:00～16:00

2階展示室9:00～17:00(最終入室16:30)

開館日・営業日は荻外荘公園に準じます。展示替えのため見学できない期間があります。

<https://ogikubo3gardens.jp/tekigaizo/tenjitou/>

ショップ、2階は屋根裏のようなイメージの展示室になっています。展示室では「荻窪 実業家、政治家、芸術家たちのすごしたまち」と題した常設展により荻窪ゆかりの文化人やまちの成り立ちを紹介、「近衛家 荻窪でのくらし」と題した特別展(11月3日まで)では近衛文麿を「荻窪に住み、荻外荘を愛した近衛さん」として紹介し、資料や荻外荘に残る遺愛品を展示しています。

杉並区のおいしいものに 出会えるカフェとショップ

1階にあるカフェでは、杉並区内の銘店のお菓子と飲み物を楽しめます。たとえば夏季シーズンルメニューの「かき氷」は、いちご味には杉並区成田東にある寅印菓子屋のいちごジャムを、抹茶味には杉並区阿佐谷南にある東京繁田園茶舗の抹茶を使用しています。これら「杉並区のおいしいもの」は、荻窪三庭園の運営パートナー(指定管理者)で和菓子の虎屋のグループ会社である株式会社虎玄のスタッフが区内のお店を実際に訪ね歩いてセレクトしました。メニューはスイーツセット

(杉並区内のお菓子とお茶またはコーヒーのセット)、フードセット(杉並区内のおにぎりまたはパンとお茶またはコーヒーのセット)などがあり、一部メニューはテイクアウトも可能です。ショップでは、荻外荘オリジナルでぬぐいやマスキングテープ、荻外荘の壁紙の柄を使ったレジャーシートやクリアファイル、荻窪三庭園のマーク付きボトルなどのオリジナル商品を販売しています。オリジナル商品のうち、杉並区が発売元となっている商品は、その売上げの全てを「杉並区みどりの基金」に積み立てています。

杉並区の新たな名所として、 文化活動の場としても活用

荻外荘公園が開園して10カ月、展示棟がオープンして3カ月が経ちました。年間の来訪者2万4000人を予定していたところ、半年で3万5000人といううれしい結果が出ています。杉並区の新たな名所である「荻窪三庭園」に、これからも多くの方々にご来訪いただき、地域の文化的・歴史的資源に親しんでいただきたいと願っています。

ます。歴史の転換点となった荻外荘は、伊東忠太が設計した現存する数少ない邸宅建築の1つですので、歴史に興味のある方はもちろん、建築が好きな方にとっても見ごたえのある場所です。大田黒公園での紅葉ライトアップやピアノコンサート、荻外荘でのアーティスティック・イン・レジデンスなど、荻窪三庭園を文化活動の場として活用する各種イベントの企画も進行しています。



荻外荘展示棟2階展示室 提供：荻窪三庭園



荻外荘展示棟カフェ 提供：杉並区